

子供を愛しなさい！

—児童虐待の深層心理—



東郷 潤

[筆者注]

●この「アイセ」と言っている存在は、人々の心の中や社会で、愛を命令している様々な存在(教師なり、親なり、深層心理の中で分裂した自我なり、良心／超自我なり、なんらかの権威者なり)のシンボルとして表現したものです。本物の神様とは無関係です。

●この絵本は、キリスト教(聖書)の「汝の隣人を愛せ」「汝の敵を愛せ」といった教えに関して描いたものでは有りません。

あるところに、子供嫌いのお母さんがいます。



でも、母親たるもの、子供を愛さなければいけません。母親が子供を愛さないなんて、決して許されることではありません。それは、とても悪いことなのです！

そこでお母さんは何が何でも子供を愛そうと、一生懸命、努力することとしました。



ためしに、お母さんは、子供を自分好みの姿に、変えてみることにしました。



ちょっと、
動かないで！

頭に花飾りをつけて、子供の顔を微笑ませたのです。



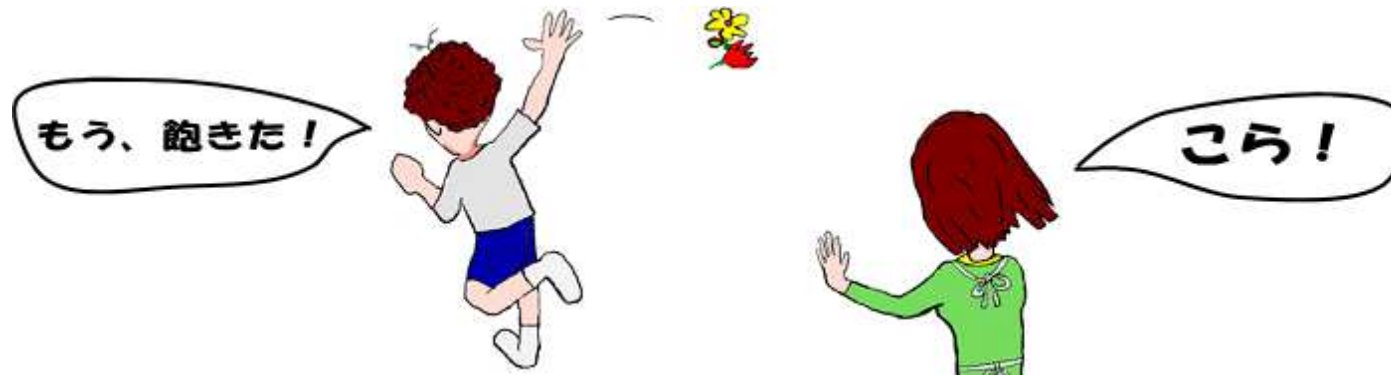
このまま笑って
いるのよ

すると、どうでしょう？ 子供が、どんどん可愛く、素敵に見えて来たのです！



これなら、愛すことは簡単です！ お母さんは、ほっとしました。

あれ、子供が動いてしまいました。・・・そしたら、花も微笑みも無くなりました。



まあ大変！ これじゃ、もう愛せません。愛せなければ、悪い母親になっちゃいます。



お母さんは、子供を怖い顔でにらみつけました。すると、子供は怯えて動かなくなりました。

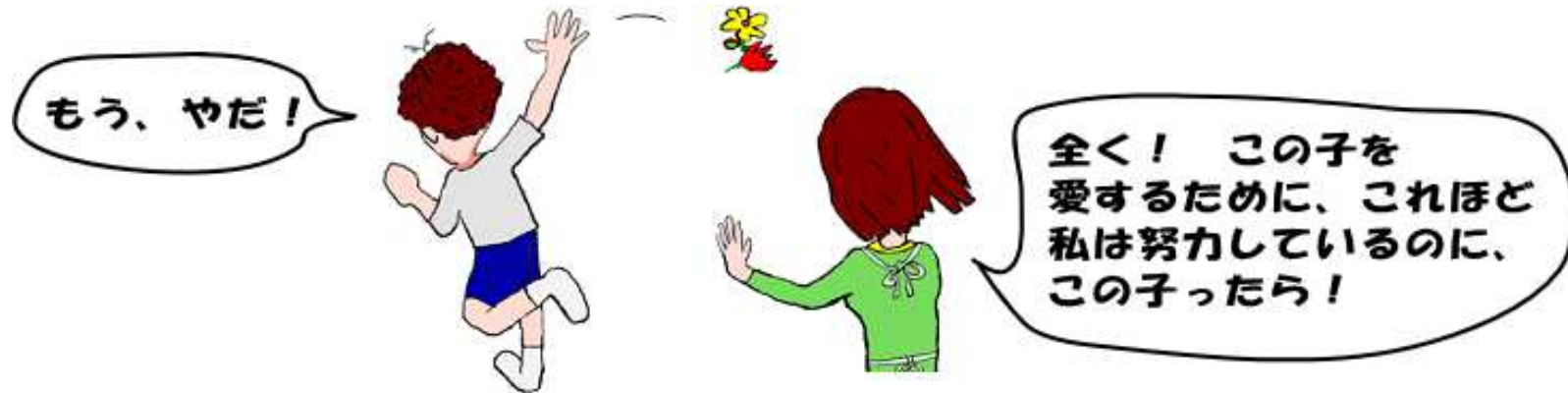
さあ、もう一回。 ほら、頭に花飾りをつけて。微笑みをつけて。



そしたら、どんどん可愛く、素敵に見えてきました。 さあ、これなら、愛すことは簡単です！ お母さんは、ほっとしました。



あれ、また子供が動いてしまいました。花も微笑みも取れちゃったのです。



大変! これじゃ、もう愛せません。愛せなければ、悪い母親になっちゃいます。

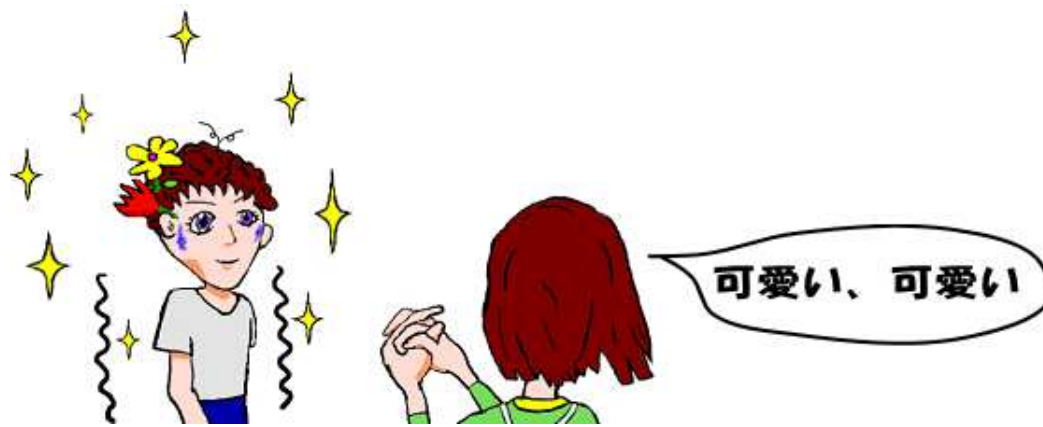


子供は怯えて、動かなくなりました。

ほら、頭に花飾りをつけて。子供の顔を微笑ませて。



そしたら、どんどん可愛く、素敵に見えてきました。さあ、これなら、愛すことは簡単です！ お母さんは、ほっとしました。



あれ、また子供が動いてしまいました。花も微笑みも取れちゃったのです。



大変！ これじゃ、もう愛せません。愛せなければ、悪人になっちゃいます。



子供は怯えて、動かなくなりました。

…こうしてお母さんは、子供を脅し、殴り、傷つけ続けたのです。



ねえ、お母さん。

この誤解は世界中の人たちがしています。だからあなたも、子供を一生懸命、愛そうとしているだけだと、きっと信じているのでしょう。

でもね、愛を無理に作り出すことなど人間には出来ません。たとえそれが実の母と子であったとしても。



どうか愛を命令しないで！

愛は生まれず、
何か別のものが、生まれちゃうから



あとがき —絵本「子供を愛しなさい」

愛を巡っては、大きな誤解／錯覚が存在するようです。

そして、この誤解は善悪の錯覚とも有機的に結合し、人類の長い歴史の中で、様々な悲劇をもたらして来たと考えることが出来ます。

もし、あなたがこの絵本に共感されたなら、他の方にもご紹介していただければとお願いいたします。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です（商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます）。また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることが出来ます。

www.j15.org

©Jun Togo 2009